

●印度製鐵事業に就て

大正十一年八月八日、シムラ滯在總領事、今井忍郎

最近發表されたる印度製鐵會社の前年度報告は印度製鐵事業の將來を聊か樂觀せしむるものあり、尤も炭坑に達するアムダ・チャムダ鐵道は技術上の困難ありて豫想より、其竣工に手間取りたるも一方にはベンガル・ナグプール鐵道會社は炭坑との連絡線工事を急ぎ本年九月には竣工の見込あり、労働問題の爲めバーンポールに於て會社の工事遅れたるも、最初のコークス爐、タール還元機械装置並に熔鑛爐等は本年末迄には落成すべく、又同一會社の經營に係る電氣工場は既に印度スタンダード・ワゴン會社の工場に電力を供給しつつあり、如斯状態なるを以て該會社はタタ製鐵會社及ベンガル製鐵會社と相並んで製鐵をなし得べく、其結果は印度の製鐵事業に大發展をなし得べしと豫期せらる、且つ英本國に於ける製鐵技術家のストライキ再發も幸に中止せられたれば、今日迄逆境に立てる世界製鐵事業も恢復の見込ありと云ひ得べきか。

英本國の製鐵生産高の現象 一九二〇年は製鐵事業の最も盛なる年にして其需要は遙に供給より超過し、價格も從て騰貴せるが同年秋季の頃より反動起り佛國及白耳義の經濟復舊に伴ひ大陸の競争加はり同年十月に於ける石炭労働者ストライキは英國製鐵事業に大打撃を與へ今尙恢復し得ざる状態にあり、同年九月末に於ける英國爐數は三〇〇なりしも客年三

月に至り一〇九に減じ、客年度の世界製鐵高は十年來會て無き少額にして其銑鐵の生産高は三五、九六〇、〇〇〇噸にして一九二〇年は六〇、六三六、四〇〇噸、一九一三年は七六、六九四、〇〇〇噸なり、而して昨年の鋼鐵生産額は四〇、七三一、〇〇〇噸にして、一昨年は六八一、三二一、〇〇〇噸、一九一三年は七四、六二九、〇〇〇噸なり。

且つ石炭坑夫のストライキにより英本國銑鐵生産高は世界の第一位より第四位に下り合衆國が首位を占め、獨佛之に次ぐ。鋼鐵生産は客年度に於て英國は第三位、佛國第四位、獨逸第二位にして合衆國は其第一位なり。尙英佛白獨米五ヶ國の製鐵輸出高は客年に於ては八、〇九五、〇〇〇噸、一昨年は一一、七五〇、〇〇〇噸、一九一三年は一五、五八三、〇〇〇噸なり、以て世界製鐵事業の大なる打撃を證するに足る、然るに現状は稍々恢復の徴候を呈し、印度及英本國に於ても多數の註文あり、且つ外國製造品と競争して外國より注文ある次第なり。勿論製鐵輸出の主たる原因は石炭及コークスの價格に左右せられ、英國に於ても石炭の價格低下は製鐵事業に好影響を與へつゝあるが、印度に於ては製鐵會社は自己の炭坑を有するか、若くは會社の附近より低價を以て石炭を買入れ得る便利を有し居れり。

最近英國に於ては燃料の價格は製鐵輸出業者に對し殆ど禁止的高價に上り一噸の英國銑鐵を生産するに要せしコークスの價格は米獨に於ける銑鐵生産に要する燃料鑛石及び労働賃金を合算せる程の高價なりしにより製鐵輸出は振はざりしも、目下石炭下落に伴ひ外國競争に堪へ白耳義品と競争し始むるに至れり。

**世界製鐵の需要** 世界製鐵の需要は目下限定され居れども將來は有望なるべきは疑を容れず、八年前戰爭勃發の當時全世界の需要は八千萬噸なりしが故に、若し戰爭なかりせば今日に於ける需要高は一億噸に達せしならん、尤も現狀を見て一九一四年の需要高五千萬噸にも達するには前途遼遠の感あり、去り乍ら印度に於ては内地向需要ありて其現存の爐を全部活動せしむる餘裕あり、且つ炭坑は會社の附近に在り又東海岸も近ければ印度は製鐵事業上至大の便を受け居れり。

### ●印度に於ける未開發富源

大正十一年八月九日、在カルカッタ總領事、今井忍郎

印度は「未開發の富源地」と稱せらるるが先づ其地下に存在する二大重要鑛石即ち鐵及石炭を調査するも其偉大なる富源を知るを得べし。

**鐵** 先づ鐵に就て云はゞ「世界の鐵源」に就て見るに現在測量を了し、而も未だ開掘し居らざる高六千五百萬噸と傳へられ其測量すら遂げられざる高二千五百萬噸之に加ふるに豫知し得べからざる高は未知數なり、即ち印度鐵鑛の高は濠洲、太平洋洲、日本、澳太利及他の數箇國を包含せるものより猶多し、金、銀、鉛、クロミアム、アルミニウム及其他の諸鑛石も現存し、採掘方法宜しきを得ば生産高の増加は疑もなし、又最近發見されたるホルランダイトと稱する鑛石は硬度強く光澤あるも其用途未だ發見せられず。

**石炭** 石炭に關しては戰前カナダに開かれたる萬國地質會議に於て印度石炭の現存高七千九百萬噸即ち露、日、彼斯、西班牙、滿洲及朝鮮の總産高よりも猶大なり此大なる石炭の存在に係らず其發掘年額は他國より少さのみならず最近の發

掘高は毎年減少せり、例へば一九二〇年の發掘高は其前年度より二割六六の減少即ち一七、九六二、〇〇〇噸なり、之を炭坑夫一人宛にすれば其採掘年額九四・四噸にして日本は一二噸、英國は一八四噸、合衆國は八〇三噸なり、斯の如く石炭採掘の能率増進せざる理由は、(一)採掘方法の幼稚、(二)採掘使用機械の不完全、(三)印度炭坑夫の能率不充分なるに存す、此最後の點は已むを得ずとし、(一)(二)の點に於ては目下鋭意改良を考中なり、尙石炭採掘業に使用せられたる資本は一九一一年度に於て七千二百二十萬留比なりしが、客年度に於ては九千三百七十萬留比に達し會社の數も一二八より二五六に増加し、一昨年度丈にても二〇〇の新會社設立せられ資本額六百九十萬留比を増加せり、勿論印度は未だ工業國の域に達せざるが故に其一人宛石炭消費高は他國より少く、一九一九年度の消費高合計二二、一六八、〇〇〇噸なりしが、一九二〇年度に至り一六、七七七、〇六九噸に下れり、此消費高は他國に較べ餘りに喜ぶべき現象に非ず即ち獨逸は一人年額消費高二・二二噸、英國は三・八噸、合衆國は四・四噸なるに、印度は一噸の二十分の一に過ぎず、石炭消費者の主たるものは勿論鐵道なるが一九二〇年度に於て全生産高の三割七分五厘即ち六、二八八、〇〇〇噸を消費し、鐵及眞鍮工場は八分の四、紡績工場六分の四、ジュート工場六分の五を消費せり。一九二〇年度に於ける印度鐵道哩數三七、五〇三哩にして一哩の石炭消費額百六十八噸、日本は四百七噸、英國は五百六十九噸なり、此數は印度に於ける鐵道運轉の經費が他國よりも安く、若くは能率の増進を證するものに非ずして寧ろ鐵道業が國家商工業の需要を充し居らざるを證す、全世界石炭供

給高の僅に四分が印度より目下生産せられつゝあるが、將來印度の石炭業は鐵道の發達に伴ひ益々發展の見込あり。

更に地上の富源を觀るに政府の統計によれば、印度は尙農業地として開拓せられざる八八、九八三、〇〇〇噓の土地を有す、將又現在の農耕地も日本及和蘭に於けるが如く集約耕作法を用ひ肥料及種子を改良し、灌漑の方法發達せば獨り收穫に於て五割増の見込あるのみならず、其收穫品の品質をも改良し得らるべきは最近研究の結果なり、而して農産物は單に食料品のみならず、ジュート及棉花の如きは世界既に定評あり、果實も十二分の生産額あるも罐詰業未だ發達せざるが故に印度果實は外國に輸出されざるも右罐詰業は將來有望の事業たるべし。

又八萬九千平方哩の森林は未だ開發せられず未知數の大樹木は開拓を待ちつゝあり。

更に家畜を觀るに印度が全世界の皮革類供給の主たる生産國たる事實に顧み今後の發達は無限なり。

更に印度の特徴とすべきモンスーンの好結果は直に非常なる商品の購買力を惹起するは公知の事實なるが假に好きモンスーンの結果一人平均一留比の增收ありとせば其購買力四億萬留比即ち邦貨二億五千萬圓の購買力を増加す、斯の如く國民に大なる購買的潛勢力を有するは殆ど他に類例なく近時合衆國及加奈陀は印度に着眼し、後者は貿易事務官を送り商品の販路を研究し前者も亦各種事業に投資しつゝあるに反し、本邦當業者が印度市場の研究を爲さず僅に棉花の買入及綿絲綿織物の輸出を除きては數量に於ても少く、徒に粗製濫造品を送りて一時の僥倖を希望するが如きは將來終に印度市場を

全然失ふに至るべきを惧る。

### ●印度の鑛業

印度は茲數年内に鑛業就中鋼鐵業の一大發展を見んとす、現に作業中のものはベンガル製鐵會社、タタ鐵鋼會社及ケープ製鋼會社の三社に過ぎず、又目下建設中又は計畫進捗中のもの三大會社あり、印度鐵鋼會社、イースターン鐵鋼會社及マンホールプールに設立せらるゝ會社即ち是なり、尙現に作業中の會社は擴張中又は擴張計畫中にして其他にも新設中、又新設計畫中のもの十指を屈すべし。是等諸會社の使用する鐵鑛及石炭は悉く同一地方に在り、主要炭層はベンガル・ナグプール鐵道の東西に在り、鐵鑛はマンブラム、シングブラム、ケオンジャール及ボナイ州に在りて運搬便利なり。現在作業中三社の現況擴張後の見込狀況左の如し。

投資額	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一九二六年
職工數	四七、五〇〇	留比
賃銀支拂年額	二〇、〇〇〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇、〇〇〇

現在及新設工場の所在地及其製品の種類左の如し。

會社名	所在地	製品
ベンガル製鐵會社	クナル	鉄
ケープ銅會社	バカール	銅
イースターン鐵鋼會社	チャーン	鉄及鋼
印度鐵鋼會社	バイン	鉄及鋼
タタ鐵鋼會社	ポール	鉄及鋼
印度亞鉛會社	タタナガール	亜鉛及硫酸
甲谷陀モニファイエス工作所	同	黄麻工作機械
印度鋼錄製造所	同	鍊及壓搾金屬製品
トラスコン鋼會社	同	コンクリート鐵筋材
珓瑯鐵器會社	同	珓瑯鐵器
印度エンフィールド鋼索會社	同	鋼索
印度錫板會社	同	錫板
農具製造會社	同	農具

擴張計畫完成後に至らば諸社の製品は莫大にて印度國內の需要を充すに足るべく尙極東及近隣諸國へ輸出するに至らん

## ●大正十一年の鐵界

**銑鐵** 我國の産業工業の内で製鐵事業位突飛な發展をなし更に亦急轉直下悲境に陥つたものは他に類例がない、當業者が救済上政府に歎願し或は合同問題を唱へ協議する向あるも依然として今日迄何等恢復を惹起すべき材料がないのみでなく、輸入契約は益々内地の市場を狂はし、釜石一號銑一噸六十一圓に對し輸入品は五十六、七圓であるから印度鐵の輸入される間は内地生産鐵の市價は常に輸入品に壓倒される、是等の原因で内地生産は益々減少し内地の需要減退と一昨年よりの在庫品もあり製鐵所の大部分は缺損状態である關係上生産を極端に控へ昨年は十二萬噸内外の見込であるが印度銑鐵の輸入は更に鈴木、川崎の契約輸入數のみで十一月末迄に七萬九千噸に達し、之れに鞍山鐵の移入を加算すれば二十三、四萬噸で十一月二十一日現在の在荷が十六萬五千四百六十五噸であるから一年を通じて市場は沈靜し取引は稀薄である、其他一般鐵類に付いて見るに一昨年夏以來内地市況多少好況に向ひ在庫品の如きも大正九年末には約二十七萬噸であつたが同十年末九萬噸に減じた爲め思惑買をなす向もあり亦米國より釘、針金等輸入し得る値段段に引返した。

**薄鐵板** は内地に於ける平板需要の増加と共に引合旺盛を極めたが昨年に入りてより外國品の輸入幅狭し上半期は殊に在庫品が激増し乃ち十年末の九萬噸から一躍十七萬噸となり市場は投賣が始まつた爲め値段は忽ち切崩され其結果は自然

買手側の買控へを誘致するに至つた。

**棒鐵類** は昨年二三月頃米國棒鐵類輸出値段を値下した爲め多少商談出來た、夫に入幡製鐵所にも三月頃迄に相當先物引合生じた爲め是等の荷物の入着する七、八月頃は夏枯の閑散期と金融關係とのため荷がさみ生じ相場は一月四圓八十錢、五六月四圓五六十錢、七八月四圓三四十錢、十月四圓五十錢であつた。更に十月以後に入り獨逸品の輸入と共に現物共引合なく八幡製鐵所にては在庫品が漸増し八、九月頃には既に七、八萬噸に達したが最近に至り多少漸騰の歩調を辿つて居るから目下が底値であらう。

**鉞力板** 一昨年からの輸入約定の入着した爲め在庫品は昨年一月末現在四千六百噸より五月末には一萬二千噸に増加し市況は著るしく不況であつたが、八月に入り英國の鉞力製造業者が無用の競争を避くるため協定値段を一定したので其結果同國の相場に支配され市場は強調子になつて來た、其他亞鉛引平板は一昨年以來建築用途多く且つ英米共内地品よりも割高であつたため輸入品を壓倒して居つたが、原料品たる薄鐵が前述の通りであるから平板も相場安となり昨年一月一枚一圓三十五錢より十二月に入りては一圓五六錢を稱へて居るが商談は年末の關係もあるが概して不振である、厚鐵板に至つては軍縮造船減少の結果一年を通じて引合僅少である、要するに重なる鐵材は久しきに亙る不況の爲め昨年になつては引合振多少堅實味を加へ思惑買手控へて居るから品物關係から見れば現在並びに今後其前途餘りに悲觀すべき材料は少ないが一般財界の不安のために取引は何れも閑散であつた。